様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　　２ 年　　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２６４３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０８９２８

研究課題名（和文）メディアドクターの取り組みによる医療健康報道の質向上に向けた研究

研究課題名（英文）Media Doctor in Japan: to improve the public literacy about health care reporting by analyzing health care journalism.

研究代表者

渡邊　清高（WATANABE, Kiyotaka）

帝京大学・医学部・准教授

研究者番号：８０４２２３０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：海外の評価尺度を参考に評価手法、指標設定について実際の記事を用いた一致率および妥当性の検証を行った。例として検査・薬剤・医療機器(TTDD)を対象とした評価に加え、自然災害、震災（例：低線量被ばくの健康影響に関する報道）や予防・検診、ワクチン接種など、患者・当事者にとどまらない話題をも対象とした。「対象集団」「効果およびリスクの定量化」「費用対効果」「見出しの適切性」などを工夫した公衆衛生版指標を試作した。情報の対象や目的によって公衆衛生版とTTDDの評価基準は異なると想定された。地域におけるメディアや図書館司書などを対象とした研修会を実施し、広くヘルスリテラシー教育にも実践可能と考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
医療や健康報道の記事の批判的吟味を通して医療情報の質の向上を目指し、「読み解き方」「伝え方」「受け止め方」について分かりやすい指標「メディアドクター指標」を提示した。「見出しの裏側“Behind the headline”」にある背景や、報道事例をめぐって現状の到達点と課題、研究成果の意義と限界、報道の影響や改善点、患者・市民からみた医療・健康報道の望ましいあり方などについて継続的に議論し、評価や改善への提案に取り入れていることが特色といえる。ご当地版の研修会、セミナーなどを積極的に展開し、地域に提供される医療情報の質における新しい課題を探るとともに、利用者や媒体にとって有益な視点を提示した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of research is to improve health literacy among public by helping citizens critically analyze healthcare issues and by promoting the principles of shared decision-making reinforced by accurate and balanced information. We evaluated topics on prevention, screening, natural disaster or nuclear disaster, etc. We reviewed the quality of the stories using a standardized rating scale. Stories were reviewed by researchers, healthcare professionals and journalists.
Validity verification of the consistency between evaluators was performed, and the standard evaluation tool were created and revised. Rating scale was simplified and used at various types of lectures for local media and librarians. This method can be applied in education to promote health literacy.

研究分野：医歯薬学

キーワード：メディアドクター　医療情報　リテラシー　研究成果の発信　マスメディア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

医療や健康を話題とする報道は日々大量に発信され、私たちが新聞やテレビ、雑誌などを通して目にしない日はない。受け手である市民、患者・家族の意思決定に少なからず影響を与えるメディア報道。その内容は正しく報じられ、適切に伝えられているだろうか。情報源を提示する研究者・医療者は的確に研究成果を発信しているだろうか。「メディアドクター」とは医療に関する各種報道を評価することで、その質を守ろうとするプロジェクトである。医療の研究者・専門家とメディア関係者がチームを組んで、発信された医療健康記事を臨床疫学、科学的根拠などの視点から新規性、煽りの要素、実行可能性、弊害、コスト、エビデンスの質などの 10 項目によって "採点" 採点し、その結果をインターネット上に発信するというユニークな活動で、オーストラリアの研究チームに（Smith, MJA 2005）に始まり、カナダ（Cassels, CMAJ 2003)、米国(Schwitzer, PlosMed 2008）などでも実施されている。研究代表者は本邦におけるメディアドクター研究会（http://mediadoctor.jp/）を主宰している。医療・健康情報ニーズの拡大とともに、情報源も多様化している。高齢化社会を迎え健康医療に関する関心の高まりと、科学技術の成果を国民との対話のなかで発信することが重視されるなか、刻々と変化する受け手のニーズに適合する情報を見定める「眼」をどのように養うか、研究者・医療提供者さらに患者・国民を含め立場を超えた喫緊の課題である。

２．研究の目的

本研究の目的は、健康・医療上の意志決定や施策の決定過程において重要な役割をもつ一般市民・患者家族向けの医療健康報道について、継続的な評価と結果の発信・フィードバックにより、品質の向上と国民の医療情報リテラシーを高めることにある。多様な専門分野をもつ研究者、臨床家などが記事を臨床疫学などの視点から評価し、結果をネットに発信するというユニークな活動を通して、国内外のメディア特性の分析とわが国における医療健康報道の質向上に資する医療社会学的研究である。本研究は医学・科学的な側面に加えメディア社会学、人文社会学の視点から効果的な情報普及のあり方について提言につながる評価を行うものである。国民・患者家族向けの情報リテラシーを向上しニーズに適合する情報発信モデルを作成することを企図している。

３．研究の方法

（１）医療健康報道の評価手法の確立

海外の評価尺度を参考に新聞・雑誌・ネットメディアの医療健康報道記事を題材に、わが国の医療健康報道の特性を踏まえた評価手法、指標の設定について妥当性、再現性および医療関係者の間との認識の相違について明らかにするとともに、海外の評価手法と結果との相違について分析し、わが国の医療健康報道の特性と質向上に資するための要素を抽出し、評価手法として確立させる。評価方法についてはオーストラリアおよび米国の実施チームへのヒアリングを行い、日本の報道記事の特性および一般市民向けの評価であることを考慮した上で、本邦の医療健康情報の現状と課題を浮き彫りにし、その質向上に資するものとする。

（２）医療健康情報発信とメディアリテラシー向上に向けた推奨の検討と提示

科学的、倫理的な妥当性を確保した、正確な医療健康報道を行うには、記事を書くジャーナリスト向けの働きかけに加え、医療関係者・研究者向けにきちんとした報道記事が書けるだけのプレスリリース情報を発信しメディアとのコミュニケーション技術が求められる。また、受け手である一般市民向けの情報の読み解き方を示しメディアリテラシーの向上を促すために必要な要素として、メディア・研究者・市民が相互に可能な取り組みを評価作業により得られた知見を基に推奨として有識者の協力を得て取りまとめ、提示する。

（３）上記２点を踏まえた検証・評価情報発信モデルの実施と運営手法

評価手法と推奨を確立、継続的な評価情報を発信するモデルを構築する。介入前後の変化が得

られるような指標を設定し、経時的な観察および介入により医療・健康情報の質、利用者である患者・国民の情報リテラシーについて比較検証、継続的な評価が可能であるか、ウェブサイト上の評価と定例的な評価を行う。運営における課題とフィードバック内容を検証し、継続的な取り組みとして実践する場合の問題点と対策を明らかにする。

４．研究成果
（1）医療健康報道の評価手法の確立
評価者によるメールおよび合議による議論および研究期間中 23 回にわたっておこなわれたグループワークを含むディスカッションにより、評価手法の改訂および簡易版の作成が継続的に行われ、以下の評価項目に沿って評価を行うことが妥当と考えられた。
■メディアドクター指標（Review Criteria of Media Doctor Japan ver4.0, 2018）
① 利用可能性
医療や薬剤について、現在利用可能か、どのような人の利用に適しているか、正確な情報を提供している。
② 新規性
医療や薬剤について、どのような点が新しいか、正確な情報を提供している。
③ 代替性
医療や薬剤について、既存の代替できる選択肢と比較できる（効果や副作用、コストなどの）情報を提供している。
④ あおり・病気づくり
あおりや病気をつくり出す内容になっていない。
⑤ 科学的根拠
医療や薬剤について、科学的根拠の質を踏まえて書かれている。
⑥ 効果の定量化
医療や薬剤の効果を適切に定量化している。
⑦ 弊害
医療や薬剤の弊害について、正確でバランスのとれた情報を提供している。
⑧ コスト
医療や薬剤の入手･利用などに必要な費用について述べている。
⑨ 情報源と利益相反
情報源・研究開発の主体（研究機関・研究者など）・資金源など、利益相反について読者が判断できるように述べている。
⑩ 見出しの適切性
見出しは、内容を適切に分かりやすく要約している。

「新規性（話題の新規性を適切に言及している）」についての評価は一致して高かった一方で、「弊害（副作用・コスト）」「代替性」「あおり・病気づくり」については評価が分かれる結果となった。新たな治療を患者に適応する臨床試験や、健康な市民を対象とするがん検診や予防など、読み手によって求められる基準が異なること、医療保険制度や診療報酬など社会的な視点を取り入れることの必要性が明らかとなった。

（2）医療健康情報発信とメディアリテラシー向上に向けた推奨の検討と提示
上記（1）の評価軸に沿って、一般向けに簡略化した評価表を作成した。公衆衛生を扱う報道（予防・検診・災害など）を新たな対象とし、医療制度や費用対効果、保険の動向を扱う報道なども評価、妥当性検証を行った。

（3）上記２点を踏まえた検証・評価情報発信モデルの実施と運営手法

上記を踏まえた市民のヘルスリテラシー向上を促すための発信方法のあり方を実践した。。コミュニケーション教育の要素を取り入れつつ、患者を対象とする診断・治療と、一般市民を対象とする予防・検診における意識変容を踏まえた提言を作成し、「メディアドクター指標　簡略版」として発信した。簡略版は研修会や市民・患者向けの講演会で使用し、医療・健康報道のガイドラインの試作と合意形成モデルの提案、研究成果発信やヘルスコミュニケーション手法への応用などが想定された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 北澤 京子、佐藤 正惠、渡邊 清高、山本 美智子	４．巻 21
２．論文標題 薬物療法に関する新聞記事のメディアドクター評価	５．発行年 2019年
３．雑誌名 医薬品情報学	６．最初と最後の頁 109～115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11256/jjdi.21.109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

１．著者名 Natsume M, Watanabe K, Matsumoto S, Naruge D, Hayashi K, Furuse J, Kawamura M, Jinno H, Sano K, Fukushima R, Osawa G, Aruga E, Hashiguchi Y, Tanaka A, Takikawa H, Seki N	４．巻 21
２．論文標題 Factors Influencing Cancer Patients' Choice of End-of-Life Care Place	５．発行年 2018年
３．雑誌名 J Palliat Med.	６．最初と最後の頁 751-765
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1089/jpm.2017.0481	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕　計19件（うち招待講演　3件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 佐藤 正恵、北澤 京子、渡邊清高
２．発表標題 情報を読み解く力・見極める力・伝える力を身につけよう：メディアドクター研究会in 広島
３．学会等名 メディアドクター研究会定例会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 北澤 京子，佐藤 正恵，渡邊 清高
２．発表標題 がんゲノムの報道をどう読むか：メディアドクター in 福岡
３．学会等名 第36回医療情報サービス研究大会
４．発表年 2019年

１．発表者名
佐藤 正恵，北澤 京子，渡邊 清高

２．発表標題
著名人の闘病体験報道を評価してみよう！～メディアドクター指標を用いて～: メディアドクターin松山

３．学会等名
日本社会薬学会第38年会ワークショップ

４．発表年
2019年

１．発表者名
北澤 京子，佐藤 正恵，渡邊 清高

２．発表標題
iPS細胞と臨床試験：メディアドクター in 京都

３．学会等名
大学図書館問題研究会京都地域グループ・メディアドクター研究会定例会（招待講演）

４．発表年
2019年

１．発表者名
渡邊 清高，北澤 京子，佐藤 正恵

２．発表標題
夢の肥満ワクチン、糖尿病ワクチン：メディアドクター in 大阪

３．学会等名
近畿病院図書室協議会第145回研修会（招待講演）

４．発表年
2019年

１．発表者名
渡邊 清高，北澤 京子，佐藤 正恵

２．発表標題
放射線災害の健康報道を住民の視点で考える（2）～メディアドクター指標（公衆衛生版）の検証

３．学会等名
メディアドクター研究会定例会

４．発表年
2019年

１．発表者名
渡邊 清高，北澤 京子，佐藤 正恵

２．発表標題
災害報道について考える　国内と海外の事例から

３．学会等名
メディアドクター研究会定例会

４．発表年
2019年

１．発表者名
渡邊 清高，北澤 京子，佐藤 正恵

２．発表標題
「高齢者のやせ」意外な健康リスク どう調べる？どう伝える？

３．学会等名
メディアドクター研究会定例会

４．発表年
2020年

１．発表者名
渡邊 清高

２．発表標題
新型コロナウイルス感染症に関するリスクコミュニケーション：情報はどのように伝えられ、どう受けとめられるのか

３．学会等名
メディアドクター研究会定例会

４．発表年
2020年

１．発表者名
渡邊清高、大澤岳史、前村聡、北澤京子、佐藤正恵

２．発表標題
：「緩和ケア」は市民にどのように伝えられ、受けとめられているか？－報道・辞書・事典の記述を読み解く－

３．学会等名
第23回緩和医療学会学術大会

４．発表年
2018年

1．発表者名 渡邊清高、花田梢、河原正典、今田敏宏
2．発表標題 がん患者と家族を支える在宅療養について考える　～島根県出雲地域の在宅緩和ケア啓発・推進のためのフォーラム～
3．学会等名 第23回緩和医療学会学術大会
4．発表年 2018年

1．発表者名 矢口明子、木下乙女、早川雅代、沖崎歩、木内大祐、坂元敦子、松本陽子、渡邊清高、若尾文彦、高山智子
2．発表標題 エビデンスが少ない領域における患者向け情報の作成・提供方法の検討:療養情報を例に
3．学会等名 第56回日本癌治療学会学術集会
4．発表年 2018年

1．発表者名 渡邊清高、調憲、浅尾高行、相羽惠介、佐々木治一郎、藤也寸志、竹山由子、片渕秀隆、境健爾、吉田稔、矢野篤次郎、加藤雅志、冨田尚裕、西山正彦
2．発表標題 6都県における情報提供と相談体制 がん医療ネットワークナビゲーターの普及に向けて
3．学会等名 第56回日本癌治療学会学術集会
4．発表年 2018年

1．発表者名 渡邊清高
2．発表標題 シンポジウム「終活」医療の現場から　アドバンス・ケア・プランニングとは
3．学会等名 第23回板橋区医師会医学会
4．発表年 2018年

１．発表者名 貫田みゆき、有賀悦子、大澤岳史、佐野圭二、近藤福雄、渡邊清高、朝倉比都美、笹野仲史、市川靖子、本橋タマ子、江口研二
２．発表標題 小学校高学年へのがん教育・帝京サマースクールについて
３．学会等名 第22回　日本緩和医療学会学術集会
４．発表年 2017年

１．発表者名 田城孝雄、渡邊清高
２．発表標題 Understanding cancer in japan
３．学会等名 31st Asian Association of Open Universities
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡邊清高、北澤京子、佐藤正惠
２．発表標題 著名人のがん報道をどう報じるか－情報の受け手と伝え手の視点を考える　メディアドクターin関西
３．学会等名 第34回医学情報サービス研究大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡邊清高、北澤京子、佐藤正惠
２．発表標題 メディアドクター指標を用いた中学生を対象としたヘルスリテラシー教育の有用性
３．学会等名 第9回日本ヘルスコミュニケーション学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 渡邊清高、田城孝雄
２．発表標題 オンライン講座「がんを知る」を活用した多人数を対象とした一般向けがん教育
３．学会等名 第55回日本癌治療学会学術集会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

メディアドクター 日本版ウェブサイト http://mediadoctor.jp/ メディアドクター研究会Facebookページ https://www.facebook.com/groups/541875516229430/ メディアドクター研究会Twitterページ https://twitter.com/MediadoctorJP

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考